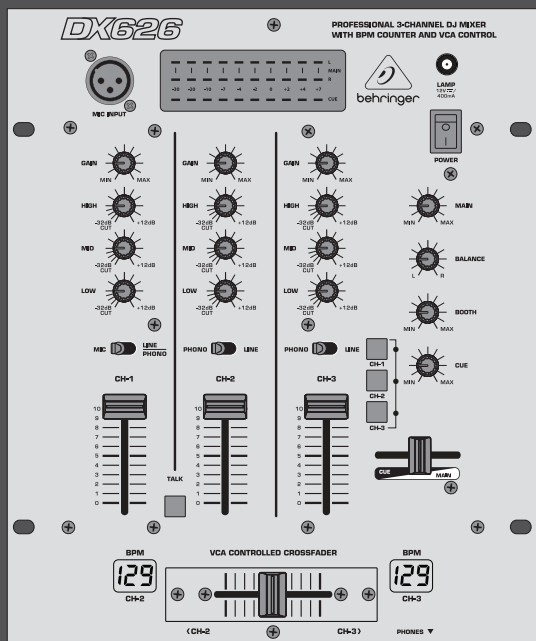




取扱説明書



PRO MIXER DX626

Professional 3-Channel DJ Mixer with
BPM Counter and VCA Control

目次

ありがとう	2
安全にお使いいただくために	3
法的放棄.....	3
限定保証.....	3
1. 概要	4
1.1 ご使用の前に	4
2. 操作部	4
2.1 フロントパネル.....	5
2.2 リアパネル	6
3. 技術仕様.....	7

ありがとう

BEHRINGER PRO MIXER DX626 は、最新のトレンドをものにすることができる DJ ミキサーです。トークオーバー機能やビートカウンターといった多くの機能によって、まったく新しいクリエイティブな作業が可能となります。DX626 は簡単な操作であなたの創造力を現実に変えるプロ仕様のミキサーです。

JP 安全にお使いいただくために**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (¼" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。
9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのもの

です。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電気技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。



12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるように手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用時の運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたしません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

法的放棄

技術的な仕様および製品の的外観は予告なく変更される場合があります。またその内容の正確性について、いかなる保証をするものではありません。BEHRINGER, KLARK TEKNIK, MIDAS, BUGERA, および TURBOSOUND は、MUSIC GROUP (MUSIC-GROUP.COM) のブランドです。すべての商標はそれぞれの所有者の財産です。MUSIC GROUP は、ここに含まれたすべて、もしくは一部の記述、画像および声明を基にお客様が起こした行動によって生じたいかなる損害・不利益等に関して一切の責任を負いません。色およびス

ペックが製品と微妙に異なる場合があります。MUSIC GROUP 製品の販売は、当社の正規代理店のみが行っています。ディストリビューターとディーラーは MUSIC GROUP の代理人ではなく、あらゆる表現、暗示された約束、説明等によって MUSIC GROUP を拘束する権利はまったくありません。この説明書は、著作権保護されています。本取扱説明書に記載された情報内容は、MUSIC GROUP IP LTD. からの書面による事前の許諾がない限り、いかなる利用者もこれを複製、使用、変更、送信、頒布、入れ替え、工作することは禁じられています。

製権所有

© 2013 MUSIC Group IP Ltd.

Trident Chambers, Wickhams Cay, P.O. Box 146,
Road Town, Tortola, British Virgin Islands

限定保証

適用される保証条件と MUSIC Group の限定保証に関する概要については、オンライン上 www.music-group.com/warranty にて詳細をご確認ください。

1. 概要

時代は移り変わる。そしてそれに取り残されたくなければアクセルを踏み続けるしかありません。この要求に応えるため、私たちは最も頻繁に使用される機能とテクノロジーが凝縮された卓越した DJ ミキサーを開発しました。この装置はダンスクラブや DJ システムの使用に最適であり、純粋な喜びをもたらしてくれることでしょう。

正直なところ説明書を読むのはあまり楽しい作業であるとはいえません。すぐにスタートしたい気持ちも良く分かりますが、DX626 の全機能を理解し、それらを有効に活用するにはお手数でもこの説明書をすべてお読みください。

- ◆ この説明書では装置の機能を完全に理解するために必要な専門用語が解説されています。必要に応じて再読できるよう、この説明書は一度読み終わった後も大切に保管してください。

1.1 ご使用の前に

DX626 は安全な輸送のために工場出荷時に十分な注意を払って梱包されていますが、万が一包装ダンボールに損傷を発見した場合には装置以外の損傷についても確認を行ってください。

- ◆ 装置が万が一故障した場合には、保証請求権が無効となる恐れがありますので当社へ直接返送せず、必ず販売店および運送会社へご連絡ください。

電源アダプターの十分な換気を確保することにご注意ください。また、過熱等を防ぐため装置を暖房器具などのそばに設置しないで下さい。



ご注意ください

- ◆ 過大な音量は聴覚障害やヘッドフォンの故障の原因となる恐れがあります。装置に電源を投入する際には、メインセクションの MASTER コントローラーを左端まで絞ってください。常に適正な音量での使用を心がけてください。

2. 操作部

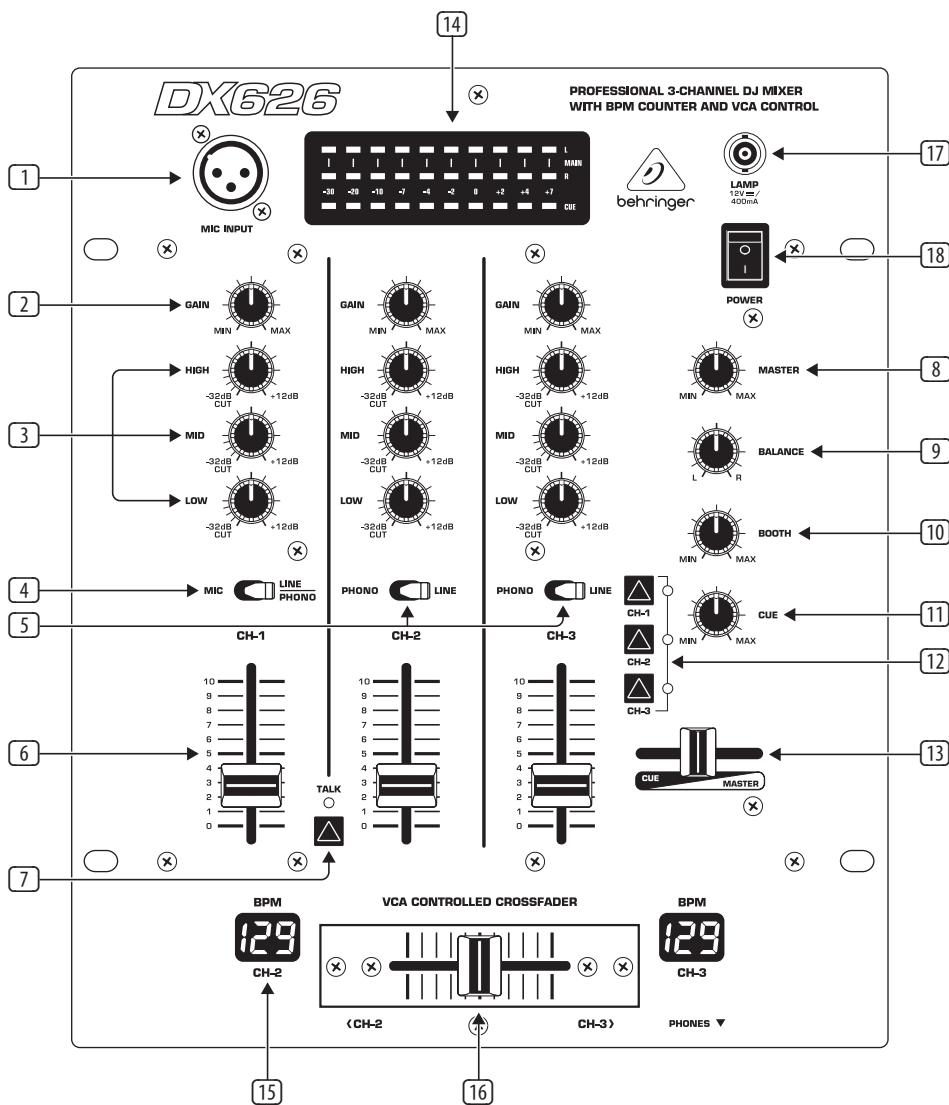


図 2.1: PRO MIXER DX626 のフロントパネル

2.1 フロントパネル

- ① **MICINPUT** はマイク用のバランス型フォンジャックです。
- ② **GAIN** コントロールは各チャンネルの入力信号レベルの設定を行います。
- ③ 各入力チャンネルにはキル特性 (-32 dB - から 12 dB) を有する 3 バンド EQ (**HIGH/MID/LOW**) がそれぞれ一基ずつ装備されています。このキル特性は、例えば音楽トラックからある特定の周波数帯域を除去する際に役に立ちます。
- ◆ **全体レベル調整も EQ 設定によって変化します。ゲインコントローラーによるレベル調整の前には、まず EQ の設定を行うようにしてください。**
- ④ **MIC/LINE-PHONO** スイッチはチャンネル 1 内でのマイク信号および Line、Phono 号の選択に使用します。スイッチが LINE もしくは PHONO 入力のどちらに設定されているかは、リアパネル部にある PHONE/LINE スイッチの位置によって決まります。(21 参照)
- ⑤ チャンネル 2 および 3 の **PHONE/LINE** スイッチでは入力感度の設定が出来ます。「Phono」はレコードプレーヤーとの接続用です。「Line」はそれ以外の音源 (CD プレーヤーや MD プレーヤーなど) の使用時に利用して下さい。
- ◆ **Line レベルの機器は高感度の Phono 入力には絶対に接続しないで下さい。Phono レベルのピックアップシステムの出力はミリボルト単位で計測されるのに対し CD プレーヤーやテープデッキのレベルはボルト単位を示します。つまり、Line 信号のレベルは Phono 入力の 100 倍以上の電圧を有することになります。**
- ⑥ **CHANNEL** フェーダーはチャンネル音量の設定に使用します。
- ⑦ この PRO MIXER DX626 にはトークオーバー機能が装備されています。この機能は、マイクを使用して話す際に **TALK** キーを押すことで自動的に音楽の音量を下げ、マイクの声聞きやすくするためのものです (**TALK-LED** が点灯します)。
- ⑧ **MASTER** コントロールは MASTER 出力の出力音量を設定します。(27 参照)
- ⑨ **BALANCE** コントロールを使用すると、マスター出力用のステレオイメージを生成することが出来ます。
- ⑩ **BOOTH** コントロールは BOOTH 出力の出力音量を設定します。(26 参照)
- ⑪ **CUE** コントロールはヘッドホン信号の音量を設定します。(PFL シグナル)
- ◆ **PFL 信号は Master 信号に影響を与えずにフェーダーの前段で曲のモニターをすることができるヘッドホン信号です。**

- ⑫ **CH-1、CH-2、CH-3** の各キーはヘッドホン信号用のシグナルソースを設定します。チャンネルをひとつに設定しても 3 つ同時にモニターすることが可能です。
- ⑬ **MASTER/CUE** フェーダーではヘッドホンに入る入力チャンネル信号と MASTER 信号の大きさを設定できます。
- ⑭ ここでは PFL および MASTER 信号の音量コントロールを 10 桁の LED ディスプレイで読み取ることが出来ます。最下部の LED チェーンは PFL 信号を表示し、上の二つのチェーンは MASTER 信号を表示します。
- ⑮ PRO MIXER DX626 の BPM カウンターは 2 つのトラック間のスムーズな切替を行い、セッションを成功させるために威力を発揮する機能です。このカウンターは選択されているトラックの様々なテンポを BPM (Beats Per Minute: ビート / 分) 単位で表示することができます。左側のディスプレイではチャンネル 2 のテンポが表示され、右側のディスプレイからはチャンネル 3 のテンポが表示されます。
- ⑯ **CROSSFADER** はチャンネル 2 と 3 のクロスフェードに使用します。
- ⑰ これは市販されている 12 ボルトの BNC ランプ用コネクターです。
- ⑱ この **POWER** スイッチで DX626 を起動させます。

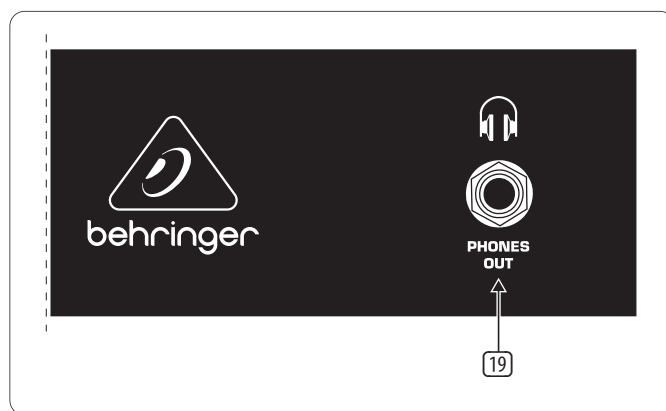


図 2.2: ヘッドホンコネクター

- ⑲ **HEADPHONES** コネクターは曲のモニターのためのヘッドホン接続端子 (PFL 信号) です。ヘッドホンは最低インピーダンス 32 Ohm のものを使用してください。

2.2 リアパネル

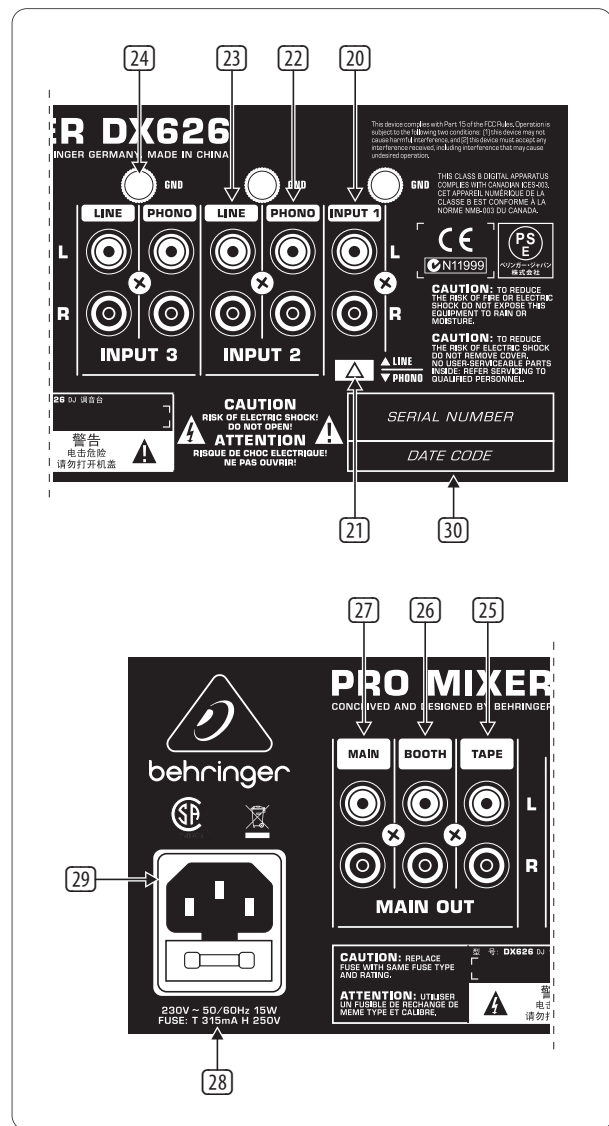


図 2.3: DX626 のリアパネル

マイクおよびヘッドホン端子を除く PRO MIXER DX626 後部に装備されているコネクタはすべて RCA ピンジャックとなっています。

⑳ チャンネル 1 用の **INPUT 1** 入力です。これは Phono あるいは Line 入力感度の切替が出来ます。

㉑ 入力チャンネル 1 の **PHONO/LINE** スイッチでは、LINE あるいは PHONO 入力のどちらかを選択することが出来ます。その際フロントパネルの MIC/LINE-PHONO スイッチが LINE-PHONO に設定されていなくてはなりません。(④ 参照)

㉒ チャンネル 2 と 3 の **PHONO** 入力もレコードプレーヤーとの接続用です。

㉓ この **LINE** 入力はテープデッキ、CD プレーヤー、MD プレーヤーの接続用などに使用されます。

㉔ **GND** コネクターはレコードプレーヤーのグラウンド接続用に使用します。

㉕ **TAPE** 出力によりテープデッキや DAT レコーダーなどの録音機器を接続することが出来ます。MASTER および BOOTH 出力に対し、この TAPE 出力は音量が固定されているため、録音機器の入力音量を設定する必要があります。

㉖ この **BOOTH** 出力では外部スピーカーとの接続が可能となります。これはフロントパネル部の BOOTH コントロールで設定することが出来ます。この出力を使えば、モニターに接続することも、別エリアにてオーディオを再生することも可能となります。

㉗ **MASTER** 出力はアンプとの接続用で、これは MASTER コントロールで設定が可能です。

◇ スピーカーの故障の原因となりやすい電源投入時の過電流の発生を防ぐため、パワーアンプの電源は必ず最後に入れるようにしてください。パワーアンプに電源を投入する際には突然の大音響の発生を防ぐためにも DX626 に信号が入力されていないことを確認してください。これには事前にすべてのフェーダーを下げ、また、回転式コントローラーをすべてゼロの位置にセットすることをお勧めします。

㉘ これは電源ケーブル用ソケットです。あらゆるアンプ回路のインパルス応答はパワーサプライの電源供給能力に依存しています。どのミキサーも Line レベル信号処理用のオペアンプを数多く搭載しています。パワーサプライの性能には制限があるために、多くのミキサーは極度の条件下で使用されると「ストレス」を起こします。しかし十分な釣り合いを保つパワーサプライを有したこの DX626 には、このような問題は起きません。サウンドは常にクリアでパワフル、透明感に溢れたものとなります。

㉙ **ヒューズホルダー / 電圧切替**: 装置を電源に接続する前に、電圧の表示が供給電圧と同じであることを確認してください。ヒューズの交換に際しては必ず同じタイプのものを使用するようにしてください。いくつかのタイプでは、230V と 115V の使用電圧の切替のためにヒューズホルダーが 2 つの異なるポジションで差し込めるようになっています。ご注意ください: ヨーロッパ以外の地域で装置を 115V の電圧で使用する場合には、大き目の安全値を使用するようにしてください。

㉚ PRO MIXER DX626 のシリアルナンバー

3. 技術仕様

オーディオ入力

Mic 入力	ゲイン 40 dB 電子バランス入力
Phono 入力	ゲイン 40 dB @ 1 kHz、 1, 2 および 3 アンバランス型 入力
Line 入力	ゲイン 0 dB、アンバランス型入 力 1, 2 および 3

オーディオ出力

Master 出力	max. +21 dBu @ +10 dB (Line in)
Booth 出力	max. +21 dBu @ +10 dB (Line in)
Tape 出力	typ. 0 dBu
Phones 出力	typ. 125 mW @ 1 % THD

イコライザー (+/-8 dB)

Stereo Low	+12 dB/-32 dB @ 50 Hz
Stereo Mid	+12 dB/-32 dB @ 1.2 kHz
Stereo High	+12 dB/-32 dB @ 10 kHz
Mic Low	+12 dB/-32 dB @ 50 Hz
Mic Mid	+12 dB/-32 dB @ 1.2 kHz
Mic High	+12 dB/-32 dB @ 10 kHz

トークオーバーキー (MIC) -16 dB

ランプ (BNC) 12 V / 400 mA

一般要綱

S/N 比	> 87 dB (Line)
クロストーク	> 70 dB
歪み率 (THD)	< 0.05%
周波数帯域	20 Hz - 20 kHz
ゲイン調整範囲	-16 dB - +6 dB

電源供給

電源電圧

米国 / カナダ	120 V ~, 60 Hz
英国 / オーストラリア	240 V ~, 50 Hz
ヨーロッパ	230 V ~, 50 Hz
一般輸出用モデル	100 - 120 V ~, 200 - 240 V ~, 50/60 Hz
消費電力	最大 15 W
ヒューズ	100 - 120 V ~: T 500 mA L 250 V 200 - 240 V ~: T 315 mA L 250 V
電源アダプター	標準 IEC コネクター

外径寸法 / 重量

寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	約 3.6 x 10 x 12" 約 91 x 254 x 305 mm
重量	約 2.6 kg

BEHRINGER 社は、最高品質水準の維持にむけた努力を常時おこなっています。必要とみなされた改良等は予告なくおこなわれますので、技術データおよび製品の写真が実物と多少相違する可能性があります。



We Hear You